

平成31年3月5日

宗教法人 阿蘇神社

重要文化財6棟 災害復旧工事の進捗について【平成31年2月】

平素より当神社の災害復旧事業にご理解ご支援を頂き厚く御礼申し上げます。

さて、別添のとおり2月の経過をお知らせいたします。今後も安全性の確保に加え、文化財の価値を損なわないよう細心の注意を払いながら、慎重かつ丁寧に進めてまいります。ご迷惑をおかけいたしますが、引き続きご協力くださいますようお願い申し上げます。

記

1, 報告内容 重要文化財6棟、災害復旧工事の進捗

附 技術者のコラム

2, 報告の期間 平成31年2月1日から28日まで

以上



楼門 上層化粧垂木継木

金輪継で継木し、側面から15mm角程度の栓を2本打ち込みました。



継手を作り栓を打ち込んだ状態です

楼門 上層化粧垂木繕い

折損した箇所には鎌状の雇を入れ、側面から12mm角程度の栓を4本打ち込みました。



雇を入れ栓を打ち込んだ状態です



防災訓練

2月6日に防災訓練として、消火訓練が行われました。

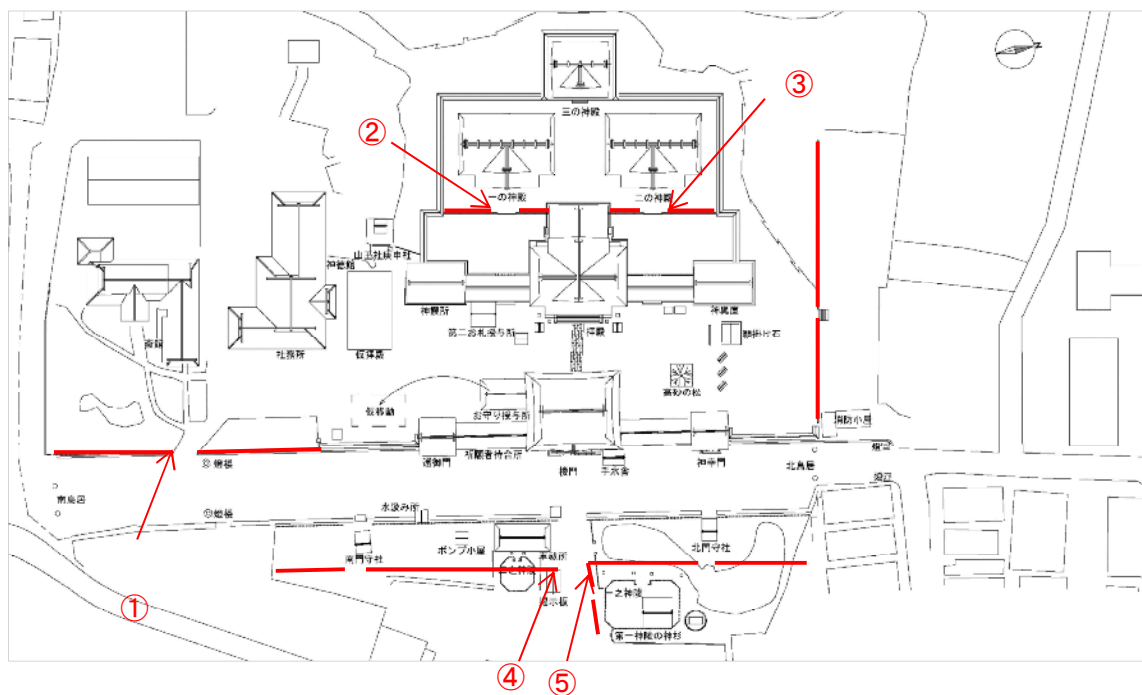


修理工事こぼれ話⑬ 境内の石造物（玉垣・石碑・石灯籠編）

前々回のコラムで、阿蘇神社境内の石造物のうち、石灯籠について紹介しました。年号が入っている石造物は石灯籠以外にもあり、古いものから新しいものまであります。今回は、昭和以前の年号の入った石造物と、前々回紹介できなかった残りの石灯籠を紹介します。

1. 玉垣

玉垣とは、神社の周囲をめぐらす柵状のもののことであり、阿蘇神社のものは石造です。下図の赤線で示した箇所が玉垣ですが、年号が書かれているものは5箇所で見つけることができました。



阿蘇神社 配置図

①斎館付近

参道と斎館の間にある玉垣には、「昭和三十一年七月」という日付が刻まれていました。



斎館付近 玉垣



斎館付近 玉垣 詳細

②、③一の神殿・二の神殿前

一の神殿と二の神殿の正面にある玉垣には、対称の位置に年号が刻まれていました。どちらも「昭和五十年十一月十二日」という同じ日付が刻まれていました。



一の神殿前 玉垣②



二の神殿前 玉垣③



二の神殿前 玉垣③ 詳細

④、⑤参道・第1駐車場間

どちらもほぼ同じ位置にあるため、同じ日付が刻まれているだろうと思っていましたが、南側の④は「昭和五十年六月」と刻まれているのに対し、北側の⑤には「昭和五十年三月」と刻まれており、3カ月ほど時期が異なりました。



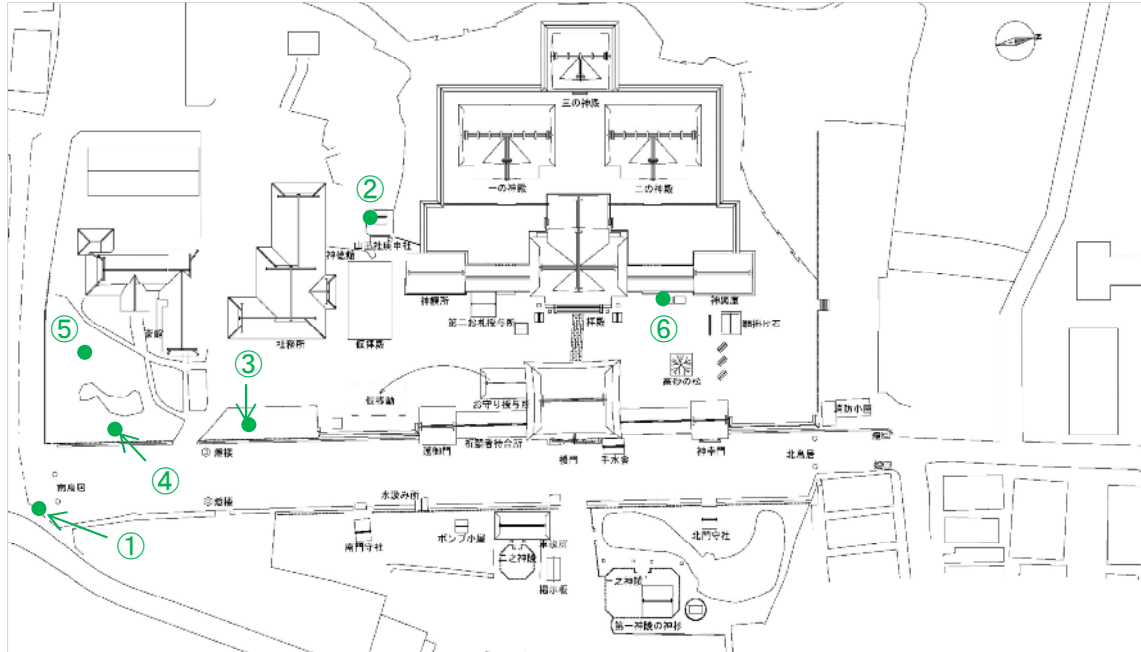
参道・第1駐車場間 玉垣④（南側）



参道・第1駐車場間 玉垣⑤（北側）

2. 石碑

石碑とは、文字や文章が刻まれている石のことをさします。一般的には、他の目的を持たず、業績や事柄を記念した文字・文章を残すために設置されているものをさします。阿蘇神社には、昭和以前の年号が刻まれた石碑は6箇所で見つけることができました。



阿蘇神社 配置図

①南鳥居前

南鳥居とともに境内との境界であることを示しています。「昭和五十一年七月」という日付が刻まれています。



南鳥居前 石碑



南鳥居前 石碑 詳細

②山王社庚申社横

山王社庚申社の南側にある石碑です。山王社庚申社の改築を記念して設置されたもののようです。「昭和五十三年一月」という日付が刻まれています。

形状的に、元は石灯籠だった可能性も考えられます。



山王社庚申社横 石碑

③社務所付近

社務所東側の植木近くにある石碑は、寄進を記念して設置されたもののようです。「大正十四年五月十五日」の日付が刻まれています。



社務所付近 石碑



社務所付近 石碑 詳細

④、⑤斎館前

どちらも歌を刻んだ石碑となっています。④の石碑には「昭和五十年九月」の日付が、⑤の石碑には「昭和五二年秋」の年号が刻まれています。



斎館前 石碑④



斎館前 石碑⑤

⑥拝殿北側

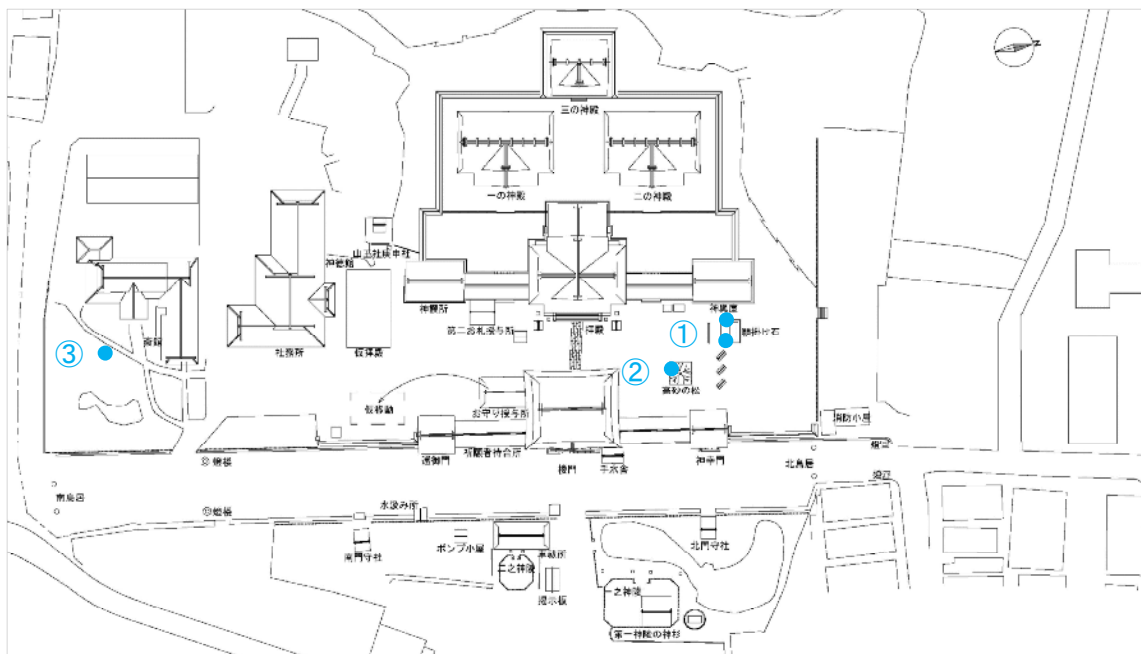
拝殿北の翼廊前に、せのび石という寄進された石碑があります。「昭和六十二年」という年号が刻まれています。



拝殿北側 石碑

3. 残りの石灯籠

以前紹介したもの以前に、あと3箇所石灯籠がありました。



阿蘇神社 配置図

①願かけ石前

願かけ石の前方に一对の灯籠があります。年号は刻まれていませんが、他のものよりも装飾が豊かな形状となっています。



願かけ石前 石灯籠

②高砂の松付近

竿が無く、上部のみ残っている状態です。



高砂の松付近 石灯籠

③斎館前

この灯籠は、明かりを入れる箇所が彫られていないため、庭園などの添景用かと思われます。年号は刻まれていませんでした。



斎館前 石灯籠

以上、境内の玉垣・石碑・石灯籠を見てきました。今回紹介したものでは年号が刻まれているものは11箇所ありましたが、そのうち8箇所の年号は昭和50年(1975)から昭和53年(1978)年の期間を示していました。そのため、昭和50～53年は、阿蘇神社で境内の整備が行われた期間であると言えそうです。また、この時期には社殿の屋根が檜皮葺から銅板葺に替えられており、石碑の年号は、境内の景観が大きく変化したタイミングを示しているのかもしれません。

(石田 陽是)

阿蘇神社災害復旧現況図

1, 国県市補助事業対象

2, 阿蘇神社自費事業対象

【重文】三の神殿

天保14年(1843)

部分解体修理

着工:平成28年12月

完了:平成30年9月

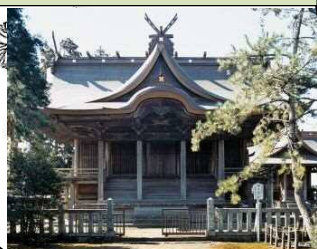


【重文】一の神殿

天保11年(1840)

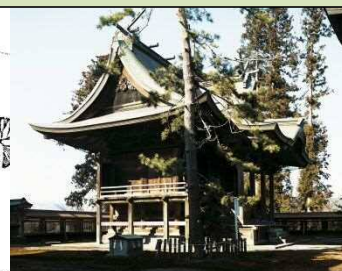
部分解体修理中

着工:平成30年7月



【重文】二の神殿 天保13年(1842)

部分解体修理中 着工:平成29年5月



拝殿・翼廊(全壊)

昭和23年(1948)

解体工事(平成28年11月)

基礎解体工事(平成30年8月)



斎館(損壊大)

昭和3年(1928)

修復工事

着工:平成30年4月

完了:平成30年11月

斎館

御札所 昭和3年(1928)

部分修理(平成28年9月)

※楼門脇から移動



【重文】還御門

嘉永2年(1849)

部分解体修理

着工:平成29年5月

完了:平成30年9月

ガイド待機

【重文】神幸門

嘉永2年(1849)

部分解体修理

着工:平成29年5月

完了:平成30年9月



【重文】楼門(全壊)

嘉永3年(1850)

解体格納工事

着工:平成28年11月

完了:平成29年11月

現在は調査・部材補修を実施中



阿蘇神社災害復旧事業 進捗状況

1, 重要文化財建造物6棟(国・熊本県・阿蘇市の補助事業)

総事業費(概算):9億3000万円(平成34年度までの見込み)

うち第1期復旧工事を実施中(事業費:415,370,000円)

2, その他の社殿(拝殿・斎館・御仮屋など)※拝殿と斎館は指定寄附金事業として実施(事業費:7億6573万円)

総事業費(概算):8億6697万円

うち斎館の修復工事は平成30年11月に完了/拝殿の復旧工事は着工にむけて準備中